

本時の目標

マイクラを使って、校舎を忠実かつホンモノっぽく再現することを通して、状況に応じてコンピュータを効果的に活用しようとする態度を育てる。

本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	留意点
導入(20分) 課題把握	<ul style="list-style-type: none"> マイクラについて知る。 動画を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介とマイクラ教育エディション導入の経緯を簡単に紹介する。 あまり説明せずに京都 PJ 金閣寺動画を見せる。 	YouTube より
課題の共有化	<p>前提課題 すご〜い！ 自分たちもやってみたい！ でもできるだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の確認 <p>学習課題 マイクラを使って自分たちの校舎を忠実かつホンモノっぽく再現するにはどうしたらいいのだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、今日の授業について話す。「自分たちの校舎をつくる！」 	取組める時間を考慮する。
展開(70分)	<ul style="list-style-type: none"> 取組みのヒントを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> グループで協力してつくる 実物とマイクラ内のスケール 調査隊の必要性とその方法 マイクラ操作はお互いに教えあう 3D酔いに十分注意し休憩する 取組み時間のめやすを確認する </div> <ul style="list-style-type: none"> マイクラ作業① 調査隊出発 休時間は作業をやめ休憩する。 ①の成果と課題を共有化し、マイクラ作業②に取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 6人以上のマルチプレイでの問題 3D酔いを防ぐ効果的な休憩 調査隊の写メの共有方法 マイクラ操作の情報交換など・・・ </div> <ul style="list-style-type: none"> 終了20分前からグループごとに発表することを確認する。 グループ毎に、全員前に出て発表する。 <p>課題解決の姿 マルチプレイを使って共同で効率的に取り組む ← ネットワークの意識化 調査活動で校舎を忠実かつホンモノっぽく再現できた ← ict機器の活用 ワールドと現実の違いを意識して再現できた ← スケールを意識する マイクラ操作を習得できた ← 互いに教えあう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使って、取組みのヒントを説明する。 ※一方的な説明にせずに、生徒との問答を意識的に行いながら、確認していく。 マイクラ作業①は、1コマ目終了時間までとする。(予定では30分間) 調査隊は生徒の規範状況を考慮して、TTで対応する。(生徒自身に考えさせることも必要) マイクラ作業①で見た成果と課題を生徒との問答を意識して共有化する。(簡潔に) マイクラ作業中は可能な限り生徒の中に入り、どのような取組みをしているか把握し、必要に応じて全体で共有させる。 時間的に完成は難しいので、できた部分や構想を発表させるようにする。 	<p>グループは好きな者は避ける。</p> <p>3D酔いに十分配慮する。</p> <p>休み時間での気分転換等を積極的に促す。</p> <p>全体に話をする時は、きちんと聞く習慣を身に付けさせる。</p> <p>発表を聞く態度についても気を付けさせる。</p>
課題解決への取組み			
課題解決			
まとめと発展(10分)	<ul style="list-style-type: none"> 講評を聞き、自分たちの成果と課題を確認する。 これからの学習について知り、自分なりの展望を持つ。 ワークシートをまとめ他己評価し、アンケートに回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の姿に照し合せて、簡潔に講評し、課題については発展でフォローする。 <p>予想される課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ネットワークを意識して活用する プログラミング学習への発展 </div> <ul style="list-style-type: none"> 他者を正しく評価することを通して、自身の評価の力を意識させる。 	良い点を前面に出し改善点は1つに絞る。

本時の評価

- 自分たちの成果を発表させ、解決の姿に照らして、授業の展開を評価する。
- ワークシートやアンケートを集計し、生徒の学びや考え方、感じ方を分析して授業評価する。